幼児の教育
第六十一巻 第十二号
幼児を交通事故から守りましょう
12 日本幼稚園協会
保育

その理論と実践

中央保育研究会編

幼児教育部会編

保育研究法

A5判上巻

改訂版

価四百円

教育心理学者であり、現場において実際に保育を実践していた著者に
して、初めて述べる保育の実際の成果である。本書は従来心理学や教育学の
理論が現場における保育へと遊離していった点をついて、実践から理論、
理論から実践への結合をはかって、きわめて平易に解説されている
叙述は現在現場に従事している保育家にも、これから現場
に続く学生にも意義ある伴侶となるであろう。

学芸図書

東京都千代田区神田錦町1丁目

■だれにもできて たのしみる

キンダーくみいたあそび

いろいろな板の切りこみを かみ合わせていくだけの

やさしい遊び……

幼児の自由な創造力や造形力
を養います。実用新案出願中
集団用 (大型・18,000円) と
個人用 (小型・1,800円) が

発売

フレーベル館
(乙)…
(丙)…
(丁)…
(甲)…

—

—
ベルギーの幼児教育から

多田 鉄雄

この七月にロンドンで開かれた第九回世界幼年教育会議に出席した際、その分科会をのぞいた、各国の人々と語り合ったりした結果、それまで書物の上で学んだり、四月以降各地をめぐって視察して学んだりした知識が、大体において整理されて世界の幼児教育の現状のアウトラインといったものが、ほぼつかめられたように思えたのである。これを一言にして言えば、それは決して従来の観念とか予想とかからそれほどへだたっていなかったものではない。各国とも就学前教育ないし幼児教育に真剣に取り組み始めていることと、その一方で今就学前教育の制度は若干の例外を除いて、一応の完成を今後ゆだねているということである。

ここに右について論論することとはできないが、私どもが今後どのように問題を考えなければならないかということが挙げられる。この両機能がともに十分に発揮されなければならぬということを理解する手かりに、就学前教育制度が最も普及している国の一つであるベルギーの場合を、ユネスコ研究所の著者たちがこれまでに報告している『幼稚教育報告書』、その他から紹介、そこで気づいた
点を一、三のべてみよう。

（1）

先ず現在のベルギーの幼稚園教育の理念は、「生活を通じて心理・学的基盤の両面から幼児教育を考えたテクノロジー」（一，二，三）を範として打ちたてられている。七～九三の研究から幼児にとって「家庭」こそが、本来最もいきいきとした教育環境であるので、それは家庭が健全に組織されていない場合のことであって、現在社会においては、健全と言ふ

それに拡されるようにあって、現在社会においては、家庭の

向けが高めてきている Dustman 母親たちの家庭の

エーシャに多分に安定を欠いており、かつ家庭が健全に組織されて

通勤を助長しているのでは、また人口の

都市集中は住宅問題をますます困難なものにしている。また人口の

解決は各方面的努力にもかかわらずかなか実現せず、これ

の要因が「健全な家庭環境」を望むべくして望み得ない事

かまる観点から、一方では将来健全な家庭を建設できるよ

うに青年男女に対する教育、いわば良好両親になる教育を推

進し、また現在の両親に対する再教育推進（高等学校の家

庭科、婦人団体による講習会、両親学校、家庭建設協会など）

を幼児教育の施設教育、すなわち幼稚園教育を強調する方

のである。

幼専園教育の主眼は、いわば家庭環境の拡大であり、換言

すれば幼児の内在的諸力を調和的に発達させるために、幼

児の諸要求や興味の相違する環境をとるのをつつめ、年令を同じくする幼児同志の生活・遊びを通じて、その社会

リアリング（育てる）ことでなければならぬことである。しかし、このためには、さらに適切な教育の目標が観察する態度、自発性的育成であり、さらに良習慣の涵養である。

次に制度としては乳児保育所、乳児保育所を立場に、それらを乳児保育所と託児所は公立、私立とあるが、ともに幼児教育に管轄されている。この機関は第一次大戦後に、母子...

—— 3 ——
保護することを目的として設置されたものであり、厚生省は
国がとくに幼稚園に対して積極的に関与しているのは幼
児の健康診断である。もとより設置者側は幼児の健康保健に
万全の注意を払っており、保育所としての教育を目的に設置
されている。保育所内では、保育者による直接の保育が
行なわれているが、所内には保育所とは別に保健・衛生
教育的な立場に立った専門的な検査が行われている。公
の機関の仕事は保育を支えているものである。

現在のところ、三歳から六歳（七歳から小学校入学）までの
該当児童の五分の四が幼稚園の保育を受けている。幼稚園
は一部が公立であるが、大半は私立（教会関係の設置に
かわる）である。ただし各市町村は、その地域内の三十五
人以上の保育料が払われる場合には、必ず幼稚園を設置せねば
ならぬことが法規で定められている。将来はこの三十五人と
いう数字を二十人まで引き下げることによって、農村地区で
も両親の希望で容易に幼稚園が設置できるよう工夫されてい
る。

多くの幼稚園はとくに女子小学校に付設されているが、独
立して設置されているものもある。私立を除いてすべての幼
稚園は保育料無料であり、国家から補助と配当がなされている。
一人当り幼稚園教員の担当児童数は三十五人以下が定められ
ているが、目下のところは国債ないし保育室、教員の不足
から一組五十人以上の児童は、一教員によって受け持たれ
ているような場合もある。市町村立幼稚園の建設費・改築費・修繕費の一部は国家
が負担し、その他の全費用を市町村が負担している。
幼稚園教員がたえ努力と経験によって、望謨程度の能力をも
得ることがあるにして、それ以上の望むることは酷である
とし、専任でない園長に現在以上を求めるつもりはないと
いる。また各幼稚園が専任園長を要する事情にないことも明らかで
ある。学校保健法その他があっ
て、幼稚園が行なうべき身体
検査とか保健施設設置とかが義務付けられている。これら
は要するに命令・監督であって助成とか援助とかいう
性質のものでない上に、学校保健法そのもののが、もとより幼
稚園のことも十分に考えられているにせよ、学校関係者全體を
従事するもので、学童以上のことはごくまれな配慮が必要である
幼
児を主として考えられているものではないであろう。第二の
点については、現在欧州の諸国において「健全な家庭」を目
指しての成人学級。両親学校。母親学校の活動が盛んで、幼
児教育の重要性を側面から啓発していることをのべると
めよう。

第三については、ベルギーで幼稚園と呼ばれているのは、
いわば我が国における幼稚園と、乳児保育を除いた保育所の
両方を含めたことであって、これはドイツその他の国でも
見られるように、同一の幼稚園の中に、半日だけ幼稚園生活
を送ってあとは家庭に帰る幼児と、一日中幼稚園生活を送る

※

※

※

※
幼児のための
作曲について

美田節子

作曲と申しますと神から才能を授けられたとき、少数の人しかできないと言われています。確かにピアノやモーツァルトのような人はある特殊な才能を持っているのです。しかし才能がないから作曲してはいけないということはないと思います。ものを作る習慣は大きいです。また何か自分で作るということは、上手・下手の別はさておき、それ自身が一つの喜びであります。作曲もそうですね。'

便利でもあります。では幼児の教育の現場で作曲を作る必要を感じた時どうすればよいでしょうか。ここに不充分なんだというインスタンプで作曲する方法やお話ししましょう。まずインスタンプの場合は、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えながりに、音楽の理論にこだわる必要はありません。自分で考えて、新たな音楽の世界を開くということも可能です。
つまり、「子どもになりきって、子どもで作るか、おとなが子どもを想像して作るか」ということです。どちらの態度であるべきかは、これが考えればわかると思います。手の曲、いよいよ曲を作ろうと深い音を最も美しい方法で作ってほしいのです。要は美しい幼い心の音を歌い出すことです。

いま一つは、先に申しましたように、私たちは今までの音楽体験によって、自然に音楽の形を学び取っていますから自然にある形式に従うようになっています。無理に新しい形式のものを作ってみようと思うと必ず自然なものになるということを知っていただきたいと思います。

もう一つ、幼児の音楽を作ることにたいせつな問題はリズムであり、リズムはよくもあればリズムはやっていないのです。おとなでも体のどこかで筋肉が自然に反応をおこしているのです。これは本当のリズムであります。リズムに反応を起こすこともできかもしれません。

以下のリズムの型は次のようにいろいろあります。

(1) 歩行—\( \frac{3}{4} \) または \( \frac{3}{4} \)

(2) 走り—\( \frac{3}{4} \) または \( \frac{3}{4} \)

(3) スキップ-

(4) スイング—\( \frac{3}{4} \) または \( \frac{3}{4} \)

(5) ジャンプ—\( \frac{3}{4} \) または \( \frac{3}{4} \)

(6) 静止と停止—\( \frac{3}{4} \) または \( \frac{3}{4} \)

でやるか変化をつくって固定音符を八分音符や八分音符に変えるかは自由です。
伴奏基本型（左手で弾く）

① 伴奏基本型（左手で弾く）
せん。できるだけ
近づく音に変なら
か美しく移って

②

いうこ、上った
り下りしなが
ら美しく描い
て進んでいくのが
よいのです。先ず

③

伴奏基本型を一か
りの調子でピア
ノで弾いて遊んで
みることです。弾

④

く回りになっている音を
メロディに少し

⑤

メロディに簡

の場合は⑤
同様のものを
メロディに
く回りに
する。同じ音を
同じ変化を
する。”す

⑥

小節同じ音を
く回りに
す。あたた

⑦

小節と同じ音を
く回りに
す。あたた

⑧

小節と同じ音を
く回りに
す。あたた

⑨

小節と同じ音を
く回りに
す。あたた

⑩

小節と同じ音を
く回りに
す。あたた

⑪

小節と同じ音を
く回りに
す。あたた

⑫

小節と同じ音を
く回りに
す。あたた

(1) 柏子でやってもよいと思いません。ジャ
ンプは左手の和音もストッカートにします。スイングはゆれを伴奏
でつけ音をしっかりと弾きます。①②

(2) おもしろいと思います。

(3) 次に歌をいかにして作るかという事です。歌詞はリズムのほっ

(4) に伴奏型の主なものを一回書いておきましたか？基本型にな

(5) に伴奏型の主なものを一回書いておきましたか？基本型にな
伴奏型

1) 2 拍子

2) 3 拍子

3) 4 拍子

4) 6 拍子
リズム読みの一例

もう  ちゃん
もう  ちゃん

2/4

お  なかが  すいたのね

*  *

上記のことを考えてみましょう。
幼児の製作と美術の動向

へぬり絵式切り絵細工からの脱却

ほんの数年前まで、大きな研究発表会の席上で、中をきかせていったものに、へぬり絵式切り絵細工という扱いが「お製作」とある。ここにへぬり絵式切り絵細工というのは教師があらかじめ画用紙に着写版やマジックインキで下絵を描いておき、幼児にその下絵にそって色をぬらす、切りぬかせ、組み立てさせる作業をするものである。しかも重みを置く作業は、こくわずかで、単純なものであった。もっぱら重点は、へぬり絵・切り絵にあたるものである。うるった「お製作」は長い伝統の上に、深く根を下しているものであった。その昔、わが国有幼稚園が創設された頃、たたみ紙（今）

日の折り紙・織絵、豆細工・粘土細工、を含めた恩物中心の保育が明治二十二年と明治三十二年の文部省令では、保育項目として一括され、教師中心の一斉指導による画一的な指導に対する反省がなされるにいたった。明治三十三年から四十一年まで、東京女子師範学校附属幼稚園評価研究会の東基吉、明治末期より大正昭和と活躍して幼児の自発活動・遊びを重視した和田実、大正六年より昭和二十三年にいたるまで附属幼稚園の主事をしての間に、レーベルの思案を思い切って追放し、積み遊びの道具としてしまった倉橋信三などいずれも子どもの自由な表現を認め育てようとした人たちであった。しかしながら、こうした先駆者たちによってなされた、子どもの自由な創造を尊重しようとする提唱も、本当に実を結んだといいさ
○腕時計作り

腕時計をつくってみましょう。
手作りの腕時計を作り、自分たちの時間感覚を身につけましょう。

○柱時計作り

柱時計を作りましょう。
手作りの柱時計を作り、時間を覚えることができます。

○割り当て

割り当てを使って、表から時計の針を、裏から振り子を重ねてとめ

○絵の面作り

絵の面を作りましょう。
手作りの絵を作り、自分の時間感覚を覚えることができます。

○使い方

使い方を覚えることができます。
手作りの使い方を覚えることができます。

○絵画の領域

絵画の領域を覚えることができます。
手作りの絵画の領域を覚えることができます。

○絵画の領域

絵画の領域を覚えることができます。
手作りの絵画の領域を覚えることができます。

○絵画の領域

絵画の領域を覚えることができます。
手作りの絵画の領域を覚えることができます。

○絵画の領域

絵画の領域を覚えることができます。
手作りの絵画の領域を覚えることができます。

○絵画の領域

絵画の領域を覚えることができます。
手作りの絵画の領域を覚えることができます。

○絵画の領域

絵画の領域を覚えることができます。
手作りの絵画の領域を覚えることができます。
保育場面では、子どもたちは自由に自体を広く表現活動の指導の一環として考えているのではないだろうか。一方で、オオカミはオオカミらしく表現させようとする。他方自由画では、自由に自分の経験を感じたことを表現させるようとする。それによって、劇の面白みは、ぬり絵を作るか、ウツミさんの絵を描くか、おおかみや、鳥は無理だ。そこで、おおかみは、「ひよこ、劇のあそびをしよう」ということになったとすると。そのようにして、おおかみと子どもたちが会話する。子どもたちは保育者の間で問題にたどりつく。「おおかみが鳥に見えるか？」という問題が、子どもたちと保育者の間で問題にたどりつく。そこで、「先生におおかみの絵をかいてもらう」、それをかぶせ、子どもたちは保育者の間で問題にたどりつく。子どもたちは保育者の間で問題にたどりつく。「ひよこ、劇のあそびをしよう」ということになったとすると。そのようにして、おおかみと子どもたちが会話する。子どもたちは保育者の間で問題にたどりつく。そこで、「先生におおかみの絵をかいてもらう」、それをかぶせ、子どもたちは保育者の間で問題にたどりつく。子どもたちは保育者の間で問題にたどりつく。
新しい小学校の指導要領では、指導内容にデザインが大きくとりあげられるようになっている。そしてこのような動きが、やがては幼稚園の絵画製作に敏感に反映していくことと思われる。それは、子どもには思いつくように、絵画が表現されるようになるからである。こうして、幼稚園の絵画製作に敏感に反映していくこと考えると、ここに幼稚園のデザイン能力についても、研究が進まれ、実践の成果が次第にあがっていることに対して、喜ばしいことと思うのである。とくに、幼稚園の指導内容として、デザインについて、時間配当の割合、一、二年生では一〇％、三年生以上で「デザインをする」として、一〇％、三年生以上で二〇％、二年生では三〇％、一年生では四〇％である。小学校の指導内容として、デザインについては、時間配当の割合、一、二年生では一〇％、三年生以上で「デザインをする」として、二〇％、三年生以上で「デザインをする」として、一〇％、二年生では二〇％、一年生では三〇％である。小学校の指導内容として、デザインについては、時間配当の割合、一、二年生では一〇％、三年生以上で「デザインをする」として、二〇％、三年生以上で「デザインをする」として、一〇％、二年生では二〇％、一年生では三〇％である。小学校の指導内容として、デザインについては、時間配当の割合、一、二年生では一〇％、三年生以上で「デザインをする」として、二〇％、三年生以上で「デザインをする」として、一〇％、二年生では二〇％、一年生では三〇％である。
絵画製作活動は昔から現在に至るまで、幼稚園生活の中で音楽リズムと共に比較的大きい割合を占めている。

絵画製作活動は、音楽リズムのもとで、絵の作成を楽しむ活動が、幼稚園の生活の中で重要な役割を果たしている。

村田 修子

わらわを材料としていろいろな表現を試み、音楽リズムの影響を受けて、新しい絵の表現が生まれる。

わらわを材料としているのを、音楽リズムの影響を受けて、新しい絵の表現が生まれる。

わらわを材料としているのを、音楽リズムの影響を受けて、新しい絵の表現が生まれる。

わらわを材料としているのを、音楽リズムの影響を受けて、新しい絵の表現が生まれる。
という疑問や不安な気持ちは起ってくる。こういった状況が絵画製作についての研究等を盛んに練り返し練り返しやらせられる原因のひとつになっていると思う。特に何年幼児といえども、すこしご少しも絵の指導はしていらっしゃいますか？と聞かれることがある。指導はしていらっしゃいますか？と聞かれると、「絵の指導はしていらっしゃいますか？」と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。絵の指導をどうするのですか？と聞かれると、「指導をどうするのですか？」と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それを受けた子どもの方に何か話が残り、頼むのです。指導をどうするのですか？と聞かれた。回想からには、それ受け
四題材についてよくみて注意深く
観察したものを書いたりしたときは、
ほかの人たちをそういいうことを思いつ
くように、ここにふりかける。ここ
このところをよく見てきたから、ほん
とのような、自分で
発見することができるように方向づけ
る。

これまで何気ない風景であり、
これからは絵画活動に一向に参加しない人
たちに対する指導がある。

参加してこない人は、
何気ない風景であり、
これからは絵画活動に一向に参加しない人
たちに対する指導がある。

これまで何気ない風景であり、
これからは絵画活動に一向に参加しない人
たちに対する指導がある。

参加してこない人は、
何気ない風景であり、
これからは絵画活動に一向に参加しない人
たちに対する指導がある。

参加してこない人は、
何気ない風景であり、
これからは絵画活動に一向に参加しない人
たちに対する指導がある。

参加してこない人は、
何気ない風景であり、
これからは絵画活動に一向に参加しない人
たちに対する指導がある。
顔や目の動きが違う。こうなんだから、お母さんが congenial の②のため、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一つの考え方、何、何、何、何とひと言捕捉、何とひと言捕捉を加えるか、もう少し違う。したから、この点は、これが問題の一つである。といえど、子どもたちを理解するため、一
2 生生活させる映像を環境に刻む

さて、私たちが、製作ということを、このように理解したうえで、子どもたちが、なぜかとおりあげられることが身に付く。さらに、セラピーを通してとりあげられることが身に付く。これに反して、青年を導く傾向は、単なる説明からコントロールされる。それに対し、不育、短い期間に激怒に赤を求める場合、敵意にし、愛情にし、強い情動に動かされていることを物語っています。これに対し、青年とその関係を考察することで、子どもたちの内面の世界を理解し、パースナリティの把握をセラピーのために、たとえ意味深いものであることを示しました。
また、いつも黒ばち使いている子どもにも、情動的行動に欠けたのがみられます。これは恐怖や不安による抑圧の反映であるため、家庭の不和や生理的パンディキャップのある子に多いようです。それでも、過剰適応であったり、表面的適応に優れていたりするので、何とか彼らは、健康な適応に欠けるので、攻撃的、孤立性にうるもやさしいです。

このように、新生児から幼児に至る経過において、色の選択は、感情、人格、内面的な状態を反映しています。色の選択は、新生児期から幼児期に至るまで、大きく変化するもので、その変化は、情動的環境により大きく影響されていることが考えられます。

形態性と空間の処理

このもの、形態性と空間の処理には、情動的環境が大きく関与していることが考えられます。情動的環境が不安定であれば、形態性と空間の処理は乱れがちになり、不安定な状態を保つようになります。反対に、情動的環境が安定している場合は、形態性と空間の処理は比較的安定してあります。

自己中心的で、おとなの注意がひかえるもので、情緒的、自己依存の特性を示すことが多く、情動的で、依存的で自信がなく、ひっこみあい、空想性にとどまる、情動的で、
幼児の造形性をめぐる新しい自覚

3. 幼児の造形性をめぐる新しい自覚

幼児画を発達的にみますと、絵線描きから図式画へと発展的に近づく傾向が現われます。古来、造形教育は、発達をそく進させる意味で、なるべく早く写実の段階へ児童をお寄せることが必要です。しかし、実の魔術師を出場させることで、手仕事をかねた存在は、当然、幼児のうすいものとなります。その結果、造形は客体主義から主体主義へと転換して、主体の揺下へと集中し始めたのです。
幼稚園でも保育園でも指導製作が非常に多く行われています。

例1
先生「今日は地球の製作をします。一番さき、一番小さい赤ちゃんの紙にりつけてください。まるで本に折ってください。」先生が折ってみせる。
先生の指図で折って折れた子に先生「これはC男ちゃん、一番小さいの？　この一番小さいのを折りましょう。」

例2
先生「今日は十五夜お月さんの製作をします。注意することなんですか。」
先生「お友だちとちやうち話したりしない。「月や、うさぎや、たぬきのときどきに聞かせてください。」
例3
子どもたちは、自由画をかいている子、箱模様で遊んでいる子、野球をやっている子。 habe はい始めてもください。
先生は画用紙とクレパスを持って来て机にすわり、色をぬり始める。
この二つの例と比較してみましょう。
子どもたちにとって、絵は大きな力を持っています。絵は想像力を育むとともに、感情を表現する手段としても役立ちます。子どもたちは、絵を通じて物語を作り出し、世界を探索し、自分たちの思いを表現することができます。先生は、子どもたちの絵を大切にします。子どもたちは、先生の絵を問い、思いを伝えるために絵を描きます。先生は、子どもたちの絵の力を信じ、寄り添う存在としているのです。
ね。 Yayınると絵を描くのだ。また飛行場に厳重に警備されるから。

「自分は黒いって。」

「はい、黒いで。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いって。」

「黒いの、黒いの。」

「自分は黒いて
幼児は数を教えても、自然にわかるようになるのでしろか。それとも、教えてやらないと、わからないようにはならないのか。幼児は特に数を教えてなくても、自然にわかるようになるのでしろか。それとも、教えてやらないと、わからないようにはならないのか。

実は、これらの質問に正しく答えようとするには、だまって幼児を待っているのではなくて、数を教えてみなければならないのです。これを同時に、ここでは、数がわかるということはどういうことなのか、物を数えているのでは、数が変わるということがどういうことなのか、物を数えているのでは、数が変わるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということなのか。

一方、数を数える、数える、数える、ということをおっしゃってください。それとも、同じ種類のものだけを数えても、数えるということのか。
し算や、同じく一桁同志の引き算を、正しく解けるようになってし
まっています。だからこれだけ見ると今の幼児たちでは、小学校
一年の課題を、すでに一年以上もまえに、半数近くの者が完成させ
てしまっていることになります。そこで、こんなにも良くできるよう
に見える幼児たちに、次のような問題を出してみます。たとえばサイコロの目一枚から五までを
出しても、これを大きく順に並べて下さい。たとえば、大きい紙と小
さい紙の両方にそれぞれ同じ数だけの黒点をつけて四とか八とか
を画いていて、どれを大きい順に並べて下さい。と、四とか八とか
同数の紙の上でゴリを一つずつ作っておいて、四枚の紙の上に一つずつゴ
石をのせても、どうでしょうか。と、一桁同志の足し算、引き算、す
かし難しいのがないと思うと、実は決して簡単ではないしゃ
のはないだろうか、と、いろいろなことが気になりますが、調べ

—— 34 ——
私共は、数に限らず、いろいろなものにおいて、この保存が確立されるということを、たとえに大切なことなので Hatsuka だけられている。数を唱えたり、複数をつなげる場合は、全
数でいくつありますか、ということの問題とかで、あまりかんば
力は、ある面では非常に高く、また他の面では、逆に非常に低いと
いうことがわかります。数を唱えたり、物と対応させて数をえたり、全
部でいくつありますか、ということの問題とかが、あまりかんば
私共が調査を行なった地域が、東京という一種、特別な所である
と、どちらが多いか、というような問題とかで、あまりかんば
この地域に関しても、調査を行なってみなければならないと考えて
いますか、おそらくは、程度に違うにしても、似たような事が見
当たる大切なことは、この能力のアンバランスを、どうしてお
して行か、ということだと思う。

私共は、幼児の能力調査と同時に、父母を対象にして、数を教え
しているかどうか、また何を教えているか、などを調べてみた。当
然予想されるように、数を唱えたり、物を数したり、簡単な足し
算や引き算をやってみたりすることは、かなりの父母が何らかの
り方で教えていることがわかります。さらに、教える、ということ
に、できるだけシンプルで、わかりやすい回答が探される。
幼児のまわりには、改まって教えるといわないとしても、結果として教えてしまうことになるような環境が作られているのだ。そこでいう幼児はいないのであって、何も教わっていない、という結果として、それにに対応した数の側面をたとえば数を唱える、数えたり、簡単な計算をしたりーの能力をつくり上げているのだ。とえそうです。だから、考える、ということをこのように考えるならば、問題は、幼児に数を、考えると、教えない、ということがある。数のいろいろの能力の、バランスを作らなければいけない、ということでありました。将来、影響を与えない、という保証があれば、幼児にとって可能なのか限りで、なるべく高い所でのバランスを作るようにし、なければならないと思っています。それは、幼児の中で、いろいろの数の能力が、正しく、適切に関係づけられ、その結果として現在出てくるようなバランスできればならないでしょう。そうなければ、現在、幼児の数の教育にとて必要なことには、一つは、数のいろいろの能力に関係づけ、全体としてバランスを取れた数能力を作り上げる、ということである。
部分がでてくる。それはまた上へ行って数範囲を拡げながらつづけ、子どもの方ではどれだけのことをやるのか考え、それに何とかなって問題を解決するために、教員等は数概念の基礎を絵を立て、まず導入の準備をした上で、すみやかに数の構造を理解させ、数概念の基礎を築いた上で、すみやかに数の構造に理解をさせ、数概念の基礎を築いた上で、の二つの方法を用いることが必要である。一つは考慮していないが、一つは考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮していないが、考慮してい
Ⅰ位数のたし算という素過程が組合された複合過程である。

水道方式ではこの素過程は、その計算が成立つわけについてよく
ゆく。そうならばこれは暗算であるが、計算の基礎になる暗算と
いう意味で基礎暗算よばれて、一般の暗算とは区別される。

幼児の数の指導でいう、たし算と引き算の基礎暗算をやることになる
が、これについてはあとで述べよう。

複合過程を考えてゆく場合は、先ず素過程の組合せによって作ら
れる複合過程を考え、その中で同じ性質をもつものをまとめていく
つかの型に分ける。考えられるすべての型のうち最も典型的な型
を複合過程から次に典型的でない複合過程に及んでゆく。たとえば
Ⅲ位数のたし算では、たす数にたされた数に何の位に何で
ない数字があり、しかもどの位にも繰り上がらない、のようない型が
典型であり、一番やさしい型である。これがすんと、だからが一
か所にあるもの、二か所にあるもの、すなわちゆく。

水道方式はこのように先ず基本的な要素を分解した後、これを
組合してゆく方法をとる。そして組合された複合過程の中では典型
的な一般的な複合過程を先ずよく理解させておいてから次に典型
的でない複合過程に及ぼして指導すると、子どもはより広い見解し
のきく地点に立って全体を見わたすことになるので分かりやすく、典
型的でない複合過程も容易に理解することができる。このよ
うな一般的特殊という指導体系は、都市の水道設備において、谷川
家庭の蛇口に至るものに似ている。というので、水道方式とという名前
がつけられた。谷川は素過程、水口地は一般的な複合過程、蛇口が
家庭の蛇口に至るものに似ている。というので、水道方式とという名前
がつけられた。谷川は素過程、水口地は一般的な複合過程、蛇口が
家庭の蛇口に至るものに似ている。というので、水道方式とという名前
がつけられた。谷川は素過程、水口地は一般的な複合過程、蛇口が
家庭の蛇口に至るものに似ている。というので、水道方式とという名前
がつけられた。谷川は素過程、水口地は一般的な複合過程、蛇口が
家庭の蛇口に至るものに似ている。というので、水道方式とという名前
がつけられた。谷川は素過程、水口地は一般的な複合過程、蛇口が
家庭の蛇口に至るものに似ている。というので、水道方式とという名前
がつけられた。谷川は素過程、水口地は一般的な複合過程、蛇口が
家庭の蛇口に至るものに似ている。というので、水道方式とという名前
がつけられた。谷川は素過程、水口地は一般的な複合過程、蛇口が
家庭の蛇口に至るものに似ている。
まとまったものにはならない。お金も両替という手続がいる。タイトルは道水方式によって始められたものではなく、ずっと昔からあっ
たではないかという人もいるが、指導体系の中に織込んで活用の仕
方を明らかにした功績はみとめるべきである。

それでは、幼児に数の指導をするのにどんな手順がとられている
か。これに関しては小川純一郎氏の報告があり、幼児向け絵本とし
ては「かぼのほん」が出されているし、最近では「道水方式に
よる幼児の数の導き方」が出版されているので、これらに従ってみ
てゆこう。（未確認の文献参照）

その大すじは次のようなものである。

(1) 集合作り
(2) 集合の大きさの比較・一対一対応
(3) 推移律
(4) 類別と数詞・数字の導入
(5) 個物・タイトル・数詞の結びつけ
(6) 散えることと物の数
(7) タイトルによる5までのたし算・引き算
(8) 10までの数の導入
(9) 0の導入
(10) 10の導入とそのたし算・引き算
(11) 10までの数のたし算・引き算

筆算の形による5までのたし算・引き算

その後の10の導入とそのたし算・引き算

10の導入とそのたし算・引き算

のを集める。積を集める。どのもののが同じ特性を持つものかを
集める。たとえば、「どうなっているの？」のように問いを
される。数えよう。数えは、数えられる要素がある。単独で集
合の大きさの比較・一対一対応

数には集合の大きさである。この比較の手順が見つかったとき
は、幼児が大きさである。このようにして残り
にした方が大きい、または多い、どちらも残りがないときは同
じ大きさというものをはっきりさせる。
このとき、く
らべるべき二つ
の集合を要素の
集合を離した
関係が現れ
る。また対応を変
えたとしても、
さまざまな場合
が考えられる。

\[
\begin{align*}
\text{a, b, c 間の大小関係} \\
\text{a, b の b, c の a, c の関係} \\
\text{関係} \\
\text{関係}
\end{align*}
\]

1. \[ a \succ b, \ b \succ c \rightarrow a \succ c \]
2. \[ a \succ b, \ b = c \rightarrow a \succ c \]
3. \[ a \succ b, \ b \prec c \]
4. \[ a = b, \ b \succ c \rightarrow a \succ c \]
5. \[ a = b, \ b = c \rightarrow a = c \]
6. \[ a = b, \ b \prec c \rightarrow a \prec c \]
7. \[ a \prec b, \ b \succ c \]
8. \[ a \prec b, \ b = c \rightarrow a \prec c \]
9. \[ a \prec b, \ b \prec c \rightarrow a \prec c \]

同じ印をつけた行どうしは、
一方の a, b, c 3 者の関係
が、他方の c, b, a 3 者の関
係と同じになっている。
数のタイル

1 2 3 4 5

(6) 數えることと物指しタイル

今までは1から5までの5種類のタイルを使っていたが、これをもっと簡単にするために一本にまとめた「物指しタイル」を使う。数のタイルとならべて、それぞれの数のタイルに対応するところに数字1・2・3・4・5が書いてあることを教え、これを物の集合にあてがって一対一に対応させる。またこれを使って数並びの大きさをまとめて数としだらぬことを教える。それに数列の中での前後関係が分かることである。

(7) タイルによる5までのたし算

<table>
<thead>
<tr>
<th>2</th>
<th>3</th>
<th>4</th>
<th>5</th>
</tr>
</thead>
</table>

同志をくっつけながら、一つの集合が加わる一方で、別の集合が加わる場合も同じように、一つの集合を二つの部分にわけてしまう分解などの事例について練習する。
次に0の入る計算を

次の順で入る。例えば、

0 + 3

0に3を足したが、0の

タイルと同様、0に3かたすとはいは3になる。このような

説明をする。0を加えてもひいても数の大小は変わらないことが

分ればあとはすぐできるという。

02位取りの原理にによる10以上の

タイルの集合を、10ずつあつ

めて図のように整理し、10ずつ

の組が2つ、残り6つのように

ならばる。これを10のタイル2と

6のタイル1とにおきかい、

この個数を数字でかきあわすと

26となる。右側の数字は1のタイ

ルの個数、左側の数字は10のタイ

ルの個数を示す。例にうろ

くとよく、にじゅうは10のタイ

ルが二個、にじゅうは1のタイ

ルが一つ。

0310までの数のたし算・ひき算

たし算は4以下の数のたし算、5以上の数と他の数との間のたし

算引き算は10までの数に24は答が5以上になるひき算という型に分けて、タイルを使って指

導する。たとえば、24は答が5以上になるので、前にやった計算

ではないことを使う。次に2のタイルに4のタイルをたす。5

ないものを用いる。
以上の数の指導は4歳頃から始めると、小学校入学前にすませてしまいましょう。このプログラムにおいては、0と1の取引のうち先にあげたようなこと、更には子どもにとって0を発見することができるということ、という移律に関して先にあげたようなことは、水道方式の人たちのプログラムである。紙面が限られているため、ここでは紙面が限られているため、水道方式の教えは含まない。なお、二年生のように早く段階を切り立てるのを適当なプログラムである。4歳頃は水道方式を含む。

文献

〇水道方式全般について
1. 遠山啓・根谷浩 "水道方式による計算体系" 一九六〇年 国士社
2. 遠山啓・根谷浩 "水道方式の教え" 一九六一年 国士社
3. 長谷川昇 "水道方式の教え" 一九六年 国士社
4. 遠山啓・田中英郎 "数式の教え" 一九六一年 国士社
5. 毎日新聞社 "算数に強くなる" 一九六年 国士社
6. 遠山啓 "小学校低・中学年の数学 教材 Z. E. S.
7. 小川純一郎 "小学校低・中学年の数学 教材 Z. E. S.
8. 遠山啓 "水道方式による幼児の数の指導" 一九六一年 国士社

（国立教育研究所）
概念形成と概念構成

幼児の概念形成

坂元 昴

I 概念形成と概念構成

概念とは、刺激を体制化し、解釈するのに用いられ、外界に適応するために役立つ、学習された反応の体系である。それ自体は、感覚刺激に基づくものなので、特徴的な刺激事態に対する過去の反応から生まれてくるものである。概念を使い、特定の事態に対する反応を適用するということがになる。また、概念は、必ずしも意識的に作られるわけではない。ふつう、コドバとかシンボルを対応する反応としている。そのおかげで、概念は、ますます現実を離れた恒常性をもち、万人に対し共通に働きかけることができる。逆に、反応の体系であるがゆえに、それ自体に固有な働きをする場合もある。

概念を、心理学的に、このように考えると、それは、生活でよく言われているように、おとなの論理的な思考の道具としての役目を果たしている。

II ビオジェとワロン

幼児の概念形成は、より広い意味をもつことになる。心理学で幼児の概念形成は、概念の選択に関係している。前者は、いわば、反応の形成に、後者は、反応の選択に関係している。したがって、概念形成は、概念構成よりも、ふつう、時間がかかるものである上に、その概念構成の基礎ともなるので、どこに大切であり、その適応能力の展開にも影響しているのである。
群体系が形式的な命題操作について認められるとき、形式的・具体的操作において認められるとき（同義性はないと）の終りであり、感覚運動的文脈でのみ認められるとき（同義性はないと）がⅡ期の終りであり、正式的な命題操作において認められるとき（同義性はないと）がⅢ期の終りである。実際の知的発達は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期と時期をとって異なる水準で均衡再構成されるように、表象の水準で具体的操作の時期を想定し、それも一つの完成した適応の時期と考えたが、ウロノンは、この真中の時期を否定する。彼は、状況再構成としてある。ウロノンの考えは、人間の精神的関係、模倣的関係、つまり、社会関係を重く見る点に特徴をもっているが、その他の点では、模倣とかのまねとか表象とかが、思考の発達に関係するというのである。ウロノンは、彼の点をたどるためには、他者との情動的な関係、模倣的関係を重く見る点に特徴をもっているが、その他の点では、模倣とかのまねとか表象とかが、思考の発達に関係するというのである。ウロノンの考えは、他者との情動的な関係、つまり、社会関係を重く見る点に特徴をもっているが、その他の点では、模倣とかのまねとか表象とかが、思考の発達に関係するというのである。ウロノンは、彼の点をたどるためには、他者との情動的な関係、模倣的関係を重く見る点に特徴をもっている。
8才に分かれている。したがって、2)に属する児童の概念形成の特徴が問題となるわけである。以下、2)を直接段階、3)を直接調
整段階とよぶ。

ワロンは、この頃の子ども思考を混同的とよぶ。「子どもは、
もとから画家の絵を描いてみたい特徴とか状況に分解できない。そうで
ない、ほんの偶然的な一つの特性が、他のすべての特性を代表す
るように思わね、全体を表わすものとみなされるようである。」

ヒューマン・ビジュアルの理論体系を実証しようとしてなされた研究の多くが、
量的概念はまだできていない。以下、群性体がないことを概念が
できていないという。「連続量の保存の実験として、ジェニュ
ースを高さや円の遙いいくつかの入れ物の先に分けてどうか多いか
を判定させたところ、ヒューマンの直観段階では、答ははたしてだっ
た。判断の基準は、入れものの数だったり、液の高さだったり、巾
だっだ。全くいかげんであった。ここでは、注目したジェニュ
ースを元にもどして考えるという逆の操作ができないのである。直
観調整段階では、ジェニュースを二つに分かたときにはだめである。また、A
（元の入れもの）とL（細長い入れものの）の液の高さを比べてLが
大きいから、AがLより多い、と言え。これは、知覚的にはLが高
まったので、逆に、巾の方向を直観的に調整して、つまり、高さへの
操作の中心化を帯びて脱中心化しようとしたままではよかったのだが、この二つの操作が協調せずに巾だけで判断をするようになったので、
数対応の問題では、直観段階の子どもたちは、8コの卵とカブを一
対一対応させるとき、そのしきめる空間の大きさによって、多少の決
断をさせるとうまくできない。混ぜられた卵を目の前に置いていて
も、その卵が混ぜられる前の状態を頭の中にえがけ（逆操作）ない
のため、それに対応するカップを比較できない。

類の合成についての実験では、子どもは20の木のピースのうち2つが白で18つが茶色のピースと、木のピースと茶のピースはどちらか一方を知っているのに、茶のピースが多いと言っている。ピースの部分、それを含む全体とを同時に考えることができないからなのか。

調整段階の子は、ピースがみくなる木であるのか、いかを知れない。

直観段階の子は、ピースがみなる木であるのか、いかを知る。

系列化と順序の対応の実験では、背丈の違う10コの木のピース一つに適した木のピースをつけて、両者を対応させる。直観段階では、人形とピースをめぐって見える。直観段階では、人形とピースをつけて見て、実際の並べてみなければならない。ただでさえ順序に対応でわかる。系列化と順序の対応の実験では、背丈の違う10コの木のピース一つに適した木のピースをつけて、両者を対応させる。直観段階では、人形とピースをめぐって見える。直観段階では、人形とピースをつけて見て、実際の並べてみなければならない。ただでさえ順序に対応でわかる。系列化と順序の対応の実験では、背丈の違う10コの木のピース一つに適した木のピースをつけて、両者を対応させる。直観段階では、人形とピースをめぐって見える。直観段階では、人形とピースをつけて見て、実際の並べてみなければならない。ただでさえ順序に対応でわかる。
保育者の生活時間

10・11・12月の活動時間と活動内容

（1）

相川 高雄

発達可能性を多く持っている未熟な幼児と絶えず接触することのため、一般の働き方の生活と、自分の生活をどのように調整し、保育者の生活時間の問題である。

一般的の教育者に関する生活時間

保育者の生活時間の問題である。
<table>
<thead>
<tr>
<th>欠点</th>
<th>好点</th>
<th>期待</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>○</td>
<td>⬤</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td>⬤</td>
<td>⬤</td>
<td>⬤</td>
</tr>
</tbody>
</table>

図1. 生化学的電気図版

＜観察の結果＞

（作成者に直接問い合わせる）
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>10月</th>
<th>11月</th>
<th>12月</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>月</td>
<td>日</td>
<td>月</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>活動時間</td>
<td>月～金</td>
<td>土</td>
<td>日</td>
</tr>
<tr>
<td>教材研究</td>
<td>7</td>
<td>50(6)</td>
<td>36(6)</td>
</tr>
<tr>
<td>個人研究</td>
<td>29(3)</td>
<td>36(4)</td>
<td>64(6)</td>
</tr>
<tr>
<td>保健</td>
<td>203(20)</td>
<td>137(15)</td>
<td>226(22)</td>
</tr>
<tr>
<td>教育評価</td>
<td>2</td>
<td>4</td>
<td>17(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>生活指導</td>
<td>8</td>
<td>20(2)</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>保育</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>対外</td>
<td>37(4)</td>
<td>30(3)</td>
<td>16(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>保育相關</td>
<td>10(1)</td>
<td>38(4)</td>
<td>10(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭訪問</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>事務</td>
<td>95(10)</td>
<td>86(10)</td>
<td>45(4)</td>
</tr>
<tr>
<td>会計</td>
<td>4</td>
<td>8</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>会議</td>
<td>6</td>
<td>7</td>
<td>11(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>研修</td>
<td>5</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>社会教育</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>13(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>施設設備</td>
<td>11(1)</td>
<td>36(4)</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>環境整備</td>
<td>51(5)</td>
<td>13(1)</td>
<td>14(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>総食</td>
<td>74(7)</td>
<td>57(6)</td>
<td>43(4)</td>
</tr>
<tr>
<td>刷注検査</td>
<td>10(1)</td>
<td>4</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>洗濯</td>
<td>16(2)</td>
<td>15(1)</td>
<td>17(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>午睡</td>
<td>20(2)</td>
<td>16(2)</td>
<td>25(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>20(2)</td>
<td>11(1)</td>
<td>18(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>休憩</td>
<td>20(2)</td>
<td>11(1)</td>
<td>18(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>登壇</td>
<td>13(1)</td>
<td>10(1)</td>
<td>10(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>退壇</td>
<td>30(3)</td>
<td>30(3)</td>
<td>20(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>10(1)</td>
<td>10(1)</td>
<td>10(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>社保</td>
<td>23(2)</td>
<td>25(2)</td>
<td>38(4)</td>
</tr>
<tr>
<td>家事</td>
<td>85(9)</td>
<td>84(9)</td>
<td>145(14)</td>
</tr>
<tr>
<td>洗濯</td>
<td>17(2)</td>
<td>16(2)</td>
<td>32(3)</td>
</tr>
<tr>
<td>掃除</td>
<td>28(3)</td>
<td>30(3)</td>
<td>25(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>洗濯具</td>
<td>15(2)</td>
<td>25(3)</td>
<td>73(7)</td>
</tr>
<tr>
<td>子供の世話</td>
<td>20(2)</td>
<td>15(2)</td>
<td>12(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>10(1)</td>
<td>20(1)</td>
<td>10(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>朝食</td>
<td>37(4)</td>
<td>33(4)</td>
<td>31(3)</td>
</tr>
<tr>
<td>昼食</td>
<td>31(3)</td>
<td>15(2)</td>
<td>13(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>夕食</td>
<td>31(3)</td>
<td>43(5)</td>
<td>50(5)</td>
</tr>
<tr>
<td>留宿</td>
<td>31(3)</td>
<td>15(2)</td>
<td>13(1)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>994(97)</td>
<td>904(97)</td>
<td>1013(96)</td>
</tr>
<tr>
<td>睡眠</td>
<td>424</td>
<td>435</td>
<td>427</td>
</tr>
</tbody>
</table>
<节录>

第2章

表 1

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>日</th>
<th>金</th>
<th>木</th>
<th>水</th>
<th>火</th>
<th>土</th>
<th>守卫</th>
<th>普渡</th>
<th>会期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>12</td>
<td>11</td>
<td>10</td>
<td>9</td>
<td>8</td>
<td>7</td>
<td>6</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第3章

表 2

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>日</th>
<th>金</th>
<th>木</th>
<th>水</th>
<th>火</th>
<th>土</th>
<th>守卫</th>
<th>普渡</th>
<th>会期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>9</td>
<td>8</td>
<td>7</td>
<td>6</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<节录>
<table>
<thead>
<tr>
<th>表3 週間における生活時間（分）</th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>活動内容</td>
<td>月</td>
<td>火</td>
<td>水</td>
<td>木</td>
<td>金</td>
<td>月から金までの平均</td>
<td>土</td>
</tr>
<tr>
<td>教材研究</td>
<td>9</td>
<td>18</td>
<td>16</td>
<td>10</td>
<td>5</td>
<td>12</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>個人研究</td>
<td>25</td>
<td>27</td>
<td>14</td>
<td>15</td>
<td>9</td>
<td>18</td>
<td>22</td>
</tr>
<tr>
<td>保育</td>
<td>211</td>
<td>214</td>
<td>183</td>
<td>197</td>
<td>214</td>
<td>204</td>
<td>120</td>
</tr>
<tr>
<td>教育評価</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>生活指導</td>
<td>3</td>
<td>6</td>
<td>9</td>
<td>5</td>
<td>8</td>
<td>10</td>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>園児と庭園</td>
<td>3</td>
<td>1.1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>5</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>園児送り</td>
<td>28</td>
<td>28</td>
<td>34</td>
<td>32</td>
<td>34</td>
<td>31</td>
<td>27</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>17</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
<td>13</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>父母関係</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>3</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭訪問</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>6</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>相談</td>
<td>88</td>
<td>72</td>
<td>78</td>
<td>56</td>
<td>74</td>
<td>74</td>
<td>73</td>
</tr>
<tr>
<td>会計</td>
<td>3</td>
<td>9</td>
<td>8</td>
<td>12</td>
<td>6</td>
<td>8</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>会議</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>10</td>
<td>6</td>
<td>3</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>研修</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社会教育</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>施設設備</td>
<td>6</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>16</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>環境整備</td>
<td>57</td>
<td>60</td>
<td>65</td>
<td>51</td>
<td>54</td>
<td>57</td>
<td>44</td>
</tr>
<tr>
<td>給食</td>
<td>86</td>
<td>80</td>
<td>79</td>
<td>96</td>
<td>93</td>
<td>87</td>
<td>55</td>
</tr>
<tr>
<td>保育管理</td>
<td>14</td>
<td>12</td>
<td>11</td>
<td>13</td>
<td>40</td>
<td>18</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>洗濯</td>
<td>12</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
<td>11</td>
<td>14</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>午睡</td>
<td>12</td>
<td>19</td>
<td>19</td>
<td>20</td>
<td>15</td>
<td>17</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>休けい</td>
<td>21</td>
<td>9</td>
<td>7</td>
<td>23</td>
<td>13</td>
<td>15</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>登園</td>
<td>10</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
<td>10</td>
<td>13</td>
<td>11</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>退園</td>
<td>29</td>
<td>26</td>
<td>26</td>
<td>27</td>
<td>27</td>
<td>27</td>
<td>35</td>
</tr>
<tr>
<td>準備</td>
<td>9</td>
<td>8</td>
<td>10</td>
<td>18</td>
<td>8</td>
<td>11</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>准備</td>
<td>38</td>
<td>45</td>
<td>40</td>
<td>28</td>
<td>47</td>
<td>40</td>
<td>35</td>
</tr>
<tr>
<td>余暇</td>
<td>119</td>
<td>121</td>
<td>108</td>
<td>69</td>
<td>115</td>
<td>106</td>
<td>153</td>
</tr>
<tr>
<td>家事</td>
<td>21</td>
<td>28</td>
<td>24</td>
<td>18</td>
<td>19</td>
<td>22</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>洗濯，床上掃除</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
<td>25</td>
<td>17</td>
<td>18</td>
<td>19</td>
<td>19</td>
</tr>
<tr>
<td>洗濯，被服</td>
<td>20</td>
<td>20</td>
<td>16</td>
<td>18</td>
<td>19</td>
<td>19</td>
<td>19</td>
</tr>
<tr>
<td>子供の世話</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
<td>14</td>
<td>18</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>19</td>
<td>31</td>
<td>12</td>
<td>36</td>
<td>14</td>
<td>22</td>
<td>35</td>
</tr>
<tr>
<td>朝食</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>32</td>
<td>35</td>
<td>34</td>
<td>34</td>
<td>31</td>
</tr>
<tr>
<td>午食</td>
<td>53</td>
<td>47</td>
<td>51</td>
<td>51</td>
<td>55</td>
<td>51</td>
<td>48</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>32</td>
<td>12</td>
<td>35</td>
<td>15</td>
<td>16</td>
<td>22</td>
<td>18</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>1017</td>
<td>1013</td>
<td>980</td>
<td>936</td>
<td>1008</td>
<td>998</td>
<td>916</td>
</tr>
<tr>
<td>睡眠</td>
<td>418</td>
<td>424</td>
<td>436</td>
<td>463</td>
<td>428</td>
<td>440</td>
<td>512</td>
</tr>
<tr>
<td>不明</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>24</td>
<td>41</td>
<td>4</td>
<td>2</td>
<td>12</td>
</tr>
</tbody>
</table>
表4 週間における活動領域と時間

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>月</th>
<th>火</th>
<th>水</th>
<th>木</th>
<th>金</th>
<th>月～金</th>
<th>土</th>
<th>日</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>保育活動</td>
<td>577</td>
<td>586</td>
<td>569</td>
<td>553</td>
<td>593</td>
<td>582</td>
<td>440</td>
<td>210</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(40)%</td>
<td>(41)%</td>
<td>(40)%</td>
<td>(38)%</td>
<td>(41)%</td>
<td>(40)%</td>
<td>(31)%</td>
<td>(15)%</td>
</tr>
<tr>
<td>保育活動</td>
<td>107</td>
<td>99</td>
<td>94</td>
<td>106</td>
<td>108</td>
<td>104</td>
<td>114</td>
<td>105</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(7)%</td>
<td>(6)%</td>
<td>(7)%</td>
<td>(10)%</td>
<td>(8)%</td>
<td>(7)%</td>
<td>(8)%</td>
<td>(2)%</td>
</tr>
<tr>
<td>個人活動</td>
<td>333</td>
<td>328</td>
<td>317</td>
<td>277</td>
<td>307</td>
<td>312</td>
<td>362</td>
<td>708</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(23)%</td>
<td>(23)%</td>
<td>(22)%</td>
<td>(19)%</td>
<td>(21)%</td>
<td>(22)%</td>
<td>(25)%</td>
<td>(49)%</td>
</tr>
<tr>
<td>睡眠</td>
<td>418</td>
<td>424</td>
<td>436</td>
<td>463</td>
<td>428</td>
<td>440</td>
<td>512</td>
<td>486</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(29)%</td>
<td>(29)%</td>
<td>(30)%</td>
<td>(32)%</td>
<td>(30)%</td>
<td>(31)%</td>
<td>(36)%</td>
<td>(34)%</td>
</tr>
<tr>
<td>不明</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>24</td>
<td>41</td>
<td>4</td>
<td>2</td>
<td>12</td>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>1日の全生活時間</td>
<td>1440分</td>
<td>1440分</td>
<td>1440分</td>
<td>1440分</td>
<td>1440分</td>
<td>1440分</td>
<td>1440分</td>
<td>1440分</td>
</tr>
</tbody>
</table>

このように、家族活動の時間が集中していることが表4の活動領域と時間で示されています。家族活動の時間は、月～金の間、土日には少なめの傾向がみられますが、土日は除外してみると、全体的な活動時間は、月～金の間に比べて逆に少なめの傾向がみられます。さらに、月～金の間に比べて、土日は家族活動の時間が集中していることが表4の活動領域と時間で示されています。

このような影響で、保育活動や個人的・私の活動に波及してき、余暇や家族の過ごし方に関する問題が生じている。すなわち、保育活動と保育活動の一環を含む活動の時間は、月～金の間に比べて、土日には少なめの傾向がみられます。さらに、家族活動の時間は、月～金の間に比べて、土日には少なめの傾向がみられます。
<table>
<thead>
<tr>
<th>日</th>
<th>月</th>
<th>火</th>
<th>水</th>
<th>木</th>
<th>金</th>
<th>土</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>10</td>
<td>20</td>
<td>30</td>
<td>40</td>
<td>50</td>
<td>60</td>
<td>70</td>
</tr>
</tbody>
</table>

図2 通信における活動時間（％）

個人の活動

個人の活動

* * *
幼児の概念形成（幼児の音感教育の研究）

自然、お茶の水女子大学附属幼稚園

子供たちの音感教育の研究

自然、教育実務指導研究会協議会

幼児の制作と一般美術の動向

絵画製作に関する集団指導

角尾、松

松平立行

多田、伊藤、筒

松平立行

多田、伊藤、筒

松平立行

多田、伊藤、筒
幼児のための
幼児のための

ゆきのあかちゃん
-ミュージカルレコード付
￥420  画・小谷野半二

おおかみと　たてごと
￥350  画・渡辺加三

幼児の発達に即した
よいこの掛図下巻
監修・平井信義
￥2300  A全版 上質紙16枚

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17(振替東京)株式教育重劇
TEL(341)3400・3227・1458(29855)会社

軽くて丈夫で美しい
キンダーパスボール

6色セット・・・1組2,800円
(空気入れポンプ付)

特色
-非常に丈夫です。
-美しい色彩です。
-空気入れが簡単です。
-軽くて、良くはずみます。
-やわらかくて、よい感触です。

(個別売)
ボール1個420円 ポンプ1台300円

発売 フレーベル館
別冊 キンダーブック
物語絵本
（季刊）

冬の号
そんごくう

作・永 漢
影絵・藤 城 清治

現代っ子たちに、昔から日本に伝わったなつかしい昔はなし、日本人の生活の知恵と愛情を笑いを伝えたい、そんな気持ちで編集しました。

A4判 16頁 付録つき 50円

東京都千代田区神田小川町 3-1

出版株式会社印刷